

【オンライン講演会】 2020年度卒論・修論報告会(その1)

日時：2021年2月26日(金)午後7時～8時30分



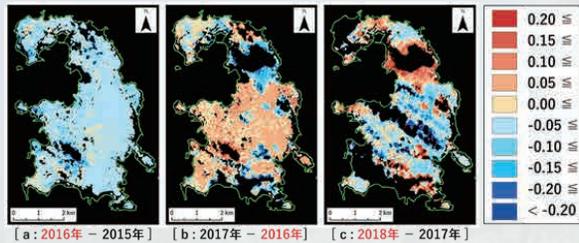
オンライン(zoom)での講演会となります。
以下のURLか右のQRコードにアクセスしてください。

<https://zoom.us/j/97216429445>

※休館中のため小笠原ビジターセンターでは開催されません

【講演1】 渇水が父島の植生に及ぼす影響を人工衛星画像からさぐる
三好周斗 (東京都立大学 地理環境学科 4年)

父島では過去に大きな渇水が数度発生しています。そうした渇水が植生に及ぼす影響を、人工衛星のデータから植物の活性度を求めるという手法を用いて検証しました。



[a: 2016年 - 2015年] [b: 2017年 - 2016年] [c: 2018年 - 2017年]



9月から翌年9月のNDVI(植物の量や活性度を表す指標)の変化(赤文字は渇水年を示す)▲

【講演2】 小笠原でしか出会えない植物はなぜ面白い？

川喜多遥菜 (京都大学 人間・環境学研究科 修士2年)



なぜ小笠原諸島ではココでしか出会えない植物が多いのだろう？その謎へ迫るため、小笠原でのみ生育する、シロトベラ・オオミトベラ・ハハジマトベラ・コバトベラの4種を扱って進化の歴史を紐解く研究をしています。

▲(左)A～D: 4種の葉、(右)C・D: 遺伝的に非常に近縁なのに花のカタチは異なる

【講演3】 観光客の島内行動も外来草本を広めるのか？
～広域的な分布パターンから検証する～

小野塚瑞季 (東京都立大学 観光科学域 修士2年)

観光客等の島内移動が、車道、遊歩道への外来草本の拡散を助長している可能性を検証し、今後も持続的に自然資源を観光利用していくための管理方針を検討しました。



父島の遊歩道ぞいのモクマオウ林 ▲

<主催> 東京都立大学小笠原研究委員会
<共催・協力・後援> BIO, (公財)東京都公園協会, 小笠原村
<問い合わせ> 小笠原ビジターセンター ☎ 04998-2-3001